光化学オキシダント及び微小粒子状物質（PM2.5）等の総合的な対策の推進

参考資料4

発生源

国内

人為起源
- 工場事業場
- 自動車
- 船舶
- 航空機
- 家庭用設備
- 野焼き　など

自然起源
- 土壌
- 黄砂
- 火山
- 森林火災
- 植物　　など

海外（越境）

前駆物質

VOC
NOx
SOx 等

酸性雨
黄砂
SPM

オキシダント

◆環境基準達成率0％
◆日最高1時間値の年平均値は漸増傾向
◆注意報発令地域広域化（特に春季の九州や日本海側で）

対策の検討が必要
前駆物質が共通するなど関連多い

PM2．5

◆まだ測定数が不十分
◆環境基準達成率が非常に低い（一般局32％、自排局8％）
◆西日本地域の状況が特に悪い

オキシダント・PM2.5　今後の問題点／残された課題

- 環境基準達成状況が非常に悪い。特に、オキシダントは日最高1時間値の平均値に改善が見られていない
- オキシダントに関する環境改善効果を適切に示す指標がない（第四次環境基本計画で指摘）

- 発生機構や発生源寄与の解明が不十分
  例えば、越境移流や二次生成機構の解明など
- 対策検討に必要な発生源データが不足
  例えば、植物起源VOC排出量の把握など
- シミュレーションモデルの高度化が不可欠

今後必要な取組／新たな専門委員会で議論

Target1
今後必要な対策等の検討
- 実施可能な対策の設定
- 効果検証

Target2
環境改善効果を適切に示す指標の検討（オキシダント）

○モニタリングの充実
- PM2.5測定網／オキシダント前駆物質測定充実
- 国際的な議論に耐えうる測定精度の管理・保証

○データの多角的解析
オキシダントでの実施例
- 前駆物質の動向も含めたデータの解析
- 高濃度事例の解析
- 大陸からの越境汚染の影響の程度の解析
- NOによるタイトレーション効果に関する解析
- 昼間の8時間平均値による解析

○排出インベントリ等の整備
- 植物起源VOC排出量などインベントリの精緻化
- 発生源プロファイルの作成　　等

○シミュレーションモデルの高度化
- 空間・時間分布の再現性検証（再現性向上）
- 主要パラメータによる感度解析　　等

施策への反映

- 必要な対策の実施
- 国際協力の更なる推進
- 緊急時の措置の改善
- 環境改善効果を示す指標の設定　　など

評価